

# 環境白書の発刊に当たって



東日本大震災とそれに伴う原子力発電所事故を契機に、私たちの暮らしや産業活動を取り巻く状況は厳しい変化の波にさらされています。原子力発電所が運転停止し、電力需給がひっ迫する中で、節電・省エネの取組などライフスタイルの転換が強く求められるとともに、将来に向けて、安心して安全なエネルギーの確保を図りつつ、地球温暖化などの環境問題を解決していくことが大きな課題となっています。

また、昨年12月にドーハで開催されたCOP18においては、京都議定書が第二約束期間として2020年まで延長されました。残念ながら我が国は、第二約束期間に参加しないこととなりましたが、歴史上初めて、世界各国が温室効果ガスの削減に責任を持って取り組むことに合意した京都議定書の意義は大きく、地球温暖化防止に向けた世界各国の連携を促し、持続可能な未来の実現に向けて全力を尽くすことが、京都の使命であることは変わりはありません。

こうした情勢のもと、京都府においては、持続可能な社会を次の世代へと引き継いでいくため、地域資源を生かした再生可能エネルギーの普及拡大やけいはんなエネルギー未来都市の実現、電気自動車等を活用したEV・PHVタウンの推進、エコ・エネルギー産業の育成など、先導的な施策に取り組んでいます。

今後、さらに厳しさを増す地球規模での環境問題や限りある資源・エネルギー問題に対して、「エネルギー自給・京都」を目指し、2020年度までに府内に立地する電源のみで最大電力需要をまかなうための取組をスタートさせるとともに、これからも、京都が長い歴史の中で育んできた知恵と文化を生かして取り組むことにより、持続可能な社会の新しいモデルを京都から創造・発信していきたいと考えています。

この白書は、京都府が目指す持続可能な社会や循環型社会の構築、豊かな自然を活かした身近な自然とのふれあい拠点の整備や絶滅のおそれのある野生生物の保護など、多岐にわたる環境保全対策の取組を府民の皆様に紹介し、環境の大切さについて考えていただく材料となることを期待して発刊するものです。

多くの皆様に御活用いただき、京都府の環境に理解を深めていただきますとともに、一緒に環境を守り育てる取組を進めていただく際にお役に立てば幸いです。

平成25年3月

京都府知事 山田 啓二